

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------------------------|--------------|--|--|---|-------|--|--|--------|---|------|------|--------|---|-----|----|------------------|---|-----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 富山情報ビジネス専門学校 | | 昭和51年4月1日 | | 喜多 憲治 | | 〒934-0341 富山県射水市三ヶ576 (電話) 0766-55-1420 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人浦山学園 | | 昭和41年12月26日 | | 浦山 哲郎 | | 〒934-0341 富山県射水市三ヶ613 (電話) 0766-55-3977 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 商業実務 | 商業実務課程 | デジタルメディア学科 | | | | 平成14年文部科学省 告示第20号 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 社会で求められるデザイン、イメージをコンピュータを利用して作成、伝達することができる人材の育成を目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年 3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2年 | 1700時間 | 60時間 | 1830時間 | 0時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40人 | | 18人 | 0人 | 1人 | 8人 | 9人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 基準 A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。 方法 課題・授業態度・その他の要素を一定割合の評価点として算出し、合計する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～9月1日 ■冬季:12月12日～1月9日 ■学年末:3月31日 | | | 卒業・進級条件 | 卒業条件:GPA(評定平均値) 2.0ポイント以上 取得単位数: 60単位以上 必修科目を取得していること 進級条件: 31単位以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的な生活指導 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ・イベント撮影 ■サークル活動: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) ・デザイン事務所 ・一般企業のデザイン部門 ・イベント会社の映像部門 | | | | 主な学修成果(資格・検定等) ※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者にに関する平成30年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ■就職指導内容 ・履歴書指導 ・面接指導 ・求人紹介 | | | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 BASIO級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 色彩検定2級 | ③ | 13人 | 9人 | マルチメディア検定 BASIO級 | ③ | 13人 | 9人 | | | | | | | | |
| | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 色彩検定2級 | ③ | 13人 | 9人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マルチメディア検定 BASIO級 | ③ | 13人 | 9人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■卒業者数: 13 人 ■就職希望者数: 13 人 ■就職者数: 13 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 100 % | | | | ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■その他 ・進学者数: 0人 | | | | ■自由記述欄 ・企業依頼によるポスター作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (平成 29 年度卒業者にに関する平成30年5月1日 時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成29年4月1日時点において、在学者18名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者18名(平成30年3月31日卒業者を含む) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ■中途退学のための取組 個人面談で本人の状況を把握し、日頃の状況を注意してみていくとともに、保護者と情報共有を行い連携をとり指導を行っている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------------|---|
| <p>経済的支援制度</p> | <p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ・プレゼンテーション入試(入学時選考) ・選考により 1年次授業料免除 1年前期授業料免除 入学金免除 1年前期施設設備費免除 ・進級時特待生試験(進級時選考) ・選考により 翌年授業料免除 翌年前期授業料免除 翌年前期演習充実費免除</p> <p>■専門実践教育訓練給付: <input checked="" type="checkbox"/>給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p> |
| <p>第三者による学校評価</p> | <p>■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p> |
| <p>当該学科のホームページURL</p> | <p>http://www.bit.uravama.ac.jp/subject-course/</p> |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業アンケートでの意見や連携している企業担当者による意見を踏まえ、職業現場に必要となるスキルを学ぶことのできる授業体系を構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

「カリキュラム作成マニュアル」において、「教育課程編成委員会での検討内容が議論されていること」と明記されている。「カリキュラム策定フロー」において、カリキュラムの振り返りに「振り返りには教育課程編成委員会での検討結果を反映させる」と明記され、カリキュラム策定開始と完成には、「教育課程編成委員会での検討結果を実践的かつ専門的なカリキュラム作成のための検討材料とする」と明記されている。

「カリキュラム運用フロー」において、「＜教育課程編成委員会開催＞ 確認・実施事項」として明記されている。カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項、各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、教科書・教材の選定に関する事項、その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項を審議し学科に提案する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|---------|---|-------------------------------|----|
| 紙居 壯吉 | 一般社団法人 富山県情報産業協会 専務理事 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | ① |
| 黒田 卓 | 国立大学法人 富山大学富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | ② |
| 古澤 繁則 | 株式会社ユーコム ITソリューション部 部長 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | ③ |
| 山村 繁 | 北電情報システムサービス株式会社マネジメント部 事業管理グループ統括マネージャ | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | ③ |
| 宝里 均 | 有限会社サイバースクウェア 代表取締役 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | ③ |
| 谷 優美子 | ジェック経営コンサルタント | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | ③ |
| 板庇 直樹 | 株式会社日本オープンシステムズ システム運用サポート部 部門長 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | ③ |
| 喜多 憲治 | 富山情報ビジネス専門学校 校長 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | |
| 山田 太 | 富山情報ビジネス専門学校教務部 部長 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | |
| 清水 大樹 | 富山情報ビジネス専門学校高度情報システム学科・情報システム学科・モバイルビジネス学科・デジタルメディア学科・インターネットビジネス学科 学科長 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | |
| 田中 夕香子 | 富山情報ビジネス専門学校高度情報システム学科・情報システム学科・モバイルビジネス学科・デジタルメディア学科・インターネットビジネス学科 主任 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | |
| 頭川 和幸 | 富山情報ビジネス専門学校高度情報システム学科 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | |
| 一ノ瀬 伊通子 | 富山情報ビジネス専門学校情報システム学科 | 平成29年10月1日～ 平成31年9月30日(2年) | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、10月・2月 開催

(開催日時)

第1回 平成29年10月2日 17:30～19:00

第2回 平成30年2月28日 17:30～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

次の提案や意見があった。

- ・一般科目を減らすことで機会を失うコミュニケーションスキルの向上は、授業の中で取り組んでいって欲しい。人とのコミュニケーションはとても重要である。
- ・動画に関する仕事の依頼が増えている。安価な機器や簡単な方法でもクオリティの高いものを作成することが可能である。
- ・IoTや、AI、ビッグデータは、今のキーワードである。新しい情報に触れ、新しい技術、モノに手をつけていく取り組みが必要である。
- ・多種多様な技術が求められている。総合的な技術者が必要である。求める人材としては基礎的な部分、人間性が重要である。
- ・アドビのソフトウェアが使えるこなせる人材が必要である。
- ・人の話を聞き、求めているものを引き出す力、わかりやすく説明する力が必要である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
職業現場において必要とされるスキルの習得という方針に基づき取り組んでいる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
当該実習および演習授業において、授業概要立案、実施、評価に至るまで連携先と相談し実施している。
年度開始前に、契約書を取り交わし、授業概要を作成確認し、実施後の成績評価まで双方の確認をおこなっている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|------------------|--|-----------|
| Webコンテンツ基礎Ⅱ A | インターネットやマルチメディア制作の中心的ソフトであるFlashについて、演習形式を中心に学習を進め、CGデザイン、Web（ホームページ）の基礎などの実習も並行して行い、基礎を身につける。 | 有限会社オデッセイ |
| Webコンテンツ演習Ⅱ A | スマートフォンサイト構築ツールとして評価の高い、jQueryMobileをテーマとし、すばやく見た目にも美しいサイトを構築する。 | 有限会社オデッセイ |
| グラフィックデザイン ⅡA | 自己表現と自己を確立する基礎的な考え方や姿勢の習得。リサーチ・企画・製作・プレゼンテーションテクニックの習得。 | 有限会社イオス |
| グラフィックデザインⅡ B | ロゴタイプのデザインツリーの製作を通しベーシックデザインとアプリケーションデザインをシステムとして学ぶ。 | 有限会社イオス |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

「富山情報ビジネス専門学校教職員研修規程」に、専門学校は、教職員に対する研修の必要性を理解するとともに、研修計画を策定し、その研修計画に基づく研修を実施することにより、教職員に研修を受ける機会を与えなければならない。と明記されている。本学科では、ITに関する最新技術や情報、製品の理解について習得する。
共同開発授業内容の確認と実践的な教授法について習得する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

IT分野でとりあげられるAI、IoT等の最新技術を知り、授業や資格分野においてその動向やスキルを授業展開していくために、以下の研修を受講した。

- ・eメッセ金沢（第32回いしかわ情報システムフェア）・・・平成29年5月19日。IT系企業及びITを活用する企業を対象としたビジネスフェアである。IT分野の最新技術が実際使用されている事例や今後展開されていく技術を体感する。
- ・SNSを使った募集戦略講習会・・・平成29年8月実施。当校教職員対象。TwitterやLineを活用した募集について。
- ・2017年度 IPA中小企業情報セキュリティ講習能力養成セミナー・・・平成29年10月31日。富山商工会議所13部会合同（主管：情報文化部会）、NPO法人ITコーディネータ富山主催。中小企業経営者、IT情報セキュリティ担当者・教育担当者、中小企業に対して情報セキュリティ対策を支援する立場の人を対象としている。コンピュータウィルス・スパイウェアなどの不正なプログラムの最新の情報の入手と、技術的な対策について学ぶとともに、次年度担当の授業へ活かすことを目的とする。
- ・中小企業こそデジタル変革でチャンスをつかめ！～成功・失敗事例に学ぶ「IoTやAIなど最新IT使いこなしの勘所」・・・平成29年11月21日。北陸コンピュータ・サービス株式会社主催。IT系企業社員を対象。IoT、AIなど最新ITについての状況と実例について。

② 指導力の修得・向上のための研修等

学生の特質の変化に対応した授業指導や、学生指導を行うため、以下の研修を受講した。

- ・なるほどその手があったか「行き詰る退学防止策に一石を投じる新しい視点」・・・平成29年8月22日。
一般社団法人 全国専門学校教育研究会主催。全国専門学校教職員対象。中退学者率を改善するための考え方や手法を学び、学内での取り組みにつなげるのが目的の研修。
- ・スカラシップ・アドバイザー養成講座・・・平成29年9月。日本学生支援機構主催。奨学金に関する研修。
- ・富山県専修学校各種学校連合会主催 教職員セミナー・・・平成30年2月6日。富山県専修学校各種学校連合会主催。対象は県内の専修学校各種学校職員対象。学生募集や学生の特質に関する研修。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

常にITの最新技術に触れ、情報を収集し、授業や演習に取り入れるため以下の研修受講を計画。

- ・eメッセ金沢(第33回いしかわ情報システムフェア)・・・平成30年5月実施。IT系企業及びITを活用する企業を対象としたビジネスフェアである。IT分野の最新技術が実際使用されている事例や今後展開されていく技術を体感する。
- ・SNSやモバイル機器を使用することに関する知識と実践を伴う研修。

② 指導力の修得・向上のための研修等

変化する学生特質に常に対応し、指導をしていくために以下の研修受講を計画。

- ・学生指導に関わる研修。
- ・富山県専修学校各種学校連合会主催 教職員セミナー・・・平成31年2月。富山県専修学校各種学校連合会主催。対象は県内の専修学校各種学校教職員対象。学生募集や学生の特質に関する研修。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

富山情報ビジネス専門学校のより実践的な職業教育の質を確保するため、自己点検評価報告書に基づき、教育活動の観察や意見交換をおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|--|
| (1) 教育理念・目標 | (自己点検・評価報告) I-A建学の精神、I-B教育の効果 |
| (2) 学校運営 | (自己点検・評価報告) III-A人的資源、IV-A理事長のリーダーシップ、IV-B校長のリーダーシップ、IV-Cガバナンス |
| (3) 教育活動 | (自己点検・評価報告) II-A教育課程、III-A人的資源 |
| (4) 学修成果 | (自己点検・評価報告) II-B学生支援 |
| (5) 学生支援 | (自己点検・評価報告) II-B学生支援 |
| (6) 教育環境 | (自己点検・評価報告) III-B物的資源、III-Cその他資源 |
| (7) 学生の受入れ募集 | (自己点検・評価報告) II-B学生支援 |
| (8) 財務 | (自己点検・評価報告) III-D財的資源 |
| (9) 法令等の遵守 | (自己点検・評価報告) I-C自己点検・評価 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | |
| (11) 国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・学習成果の測定方法を検証すべき
学内で検討し、検定2週間前からの測定を開始した。資格の必要性も併せて検討実施中。
- ・卒業生の離職についての対応
離職率調査を実施するため準備中。離職しないための指導授業として、学科ごとにキャリア支援を平成30年度入学生から実施予定。
- ・学生が、自習できるようにする仕組みづくり
各学科でアクティブラーニングへの対応と併せて検討実施中。
- ・実務対応と適応力を育む人材育成
リーダーシップだけでなく、フォロワーシップの重要性も指導するためのキャリア指導科目設定。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年3月15日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|----------------------|---------------------------|-------|
| 吉岡 隆一郎 | 株式会社文苑堂書店 代表取締役 社長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年) | 企業等委員 |
| 杉本 章郎 | 富山情報ビジネス専門学校同窓会 会長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年) | 卒業生 |
| 奈呉江 教典 | 高岡龍谷高等学校 校長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年) | 高校校長 |
| 寺谷 隆子 | 富山情報ビジネス専門学校同窓会 後援会長 | 平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年) | PTA |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにて毎年3月に公表

URL:

http://www.bit.urayama.ac.jp/disclosure/pdf/evaluation_report.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

富山情報ビジネス専門学校職業実践専門課程認定学科における職業教育について、次年度より実践的な教育活動をおこなうための指摘事項や意見をもらう場とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|-------------|---|
| (1) 教育理念・目標 | (自己点検・評価報告) I-A建学の精神、 建学の精神が確立している。 建学の精神の改善計画 I-B教育の効果 教育目的・目標が確立している 学習成果を定めている 教育の質を保証している |
| (2) 学校運営 | (自己点検・評価報告) III-A人的資源 基礎資料 学校法人および富山情報ビジネス専門学校の沿革 学校法人の概要 富山情報ビジネス専門学校の組織図 専任教員数、非常勤教員数、事務職員数 IV-A理事長のリーダーシップ、 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している IV-B校長のリーダーシップ 学習成果を獲得するために教授会等の専門学校の教学運営体制が確立している IV-Cガバナンス 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催し、理事長を含め役員の 諮問機関として適切に運営している ガバナンスが適切に機能している |

| | |
|---------|--|
| (3)教育活動 | <p>(自己点検・評価報告)</p> <p>II-A教育課程 学位授与の方針を明確に示している 教育課程編成・実施の方針を明確に示している 入学者受け入れの方針を明確に示している 学習成果の査定(アセスメント)は明確である 学生の卒業後評価への取り組みを行っている</p> <p>III-A人的資源 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている 学習成果を向上させるための事務組織を整備している 人事管理が適切に行われている</p> <p>基礎資料 富山情報ビジネス専門学校の組織図 専任教員数、非常勤教員数、事務職員数</p> |
| (4)学修成果 | <p>(自己点検・評価報告)</p> <p>学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している</p> |
| (5)学生支援 | <p>(自己点検・評価報告)</p> <p>学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている 進路支援を行っている</p> |
| (6)教育環境 | <p>(自己点検・評価報告) III-B物的資源、III-Cその他資源 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備活用している 施設設備の維持管理を適切に行っている</p> <p>基礎資料 学校法人および富山情報ビジネス専門学校の沿革 学校法人の概要 富山情報ビジネス専門学校の組織図 専任教員数、非常勤教員数、事務職員数 学生の入学動向(出身地別入学者数)</p> <p>学生データ 入学定員。入学者数、定員充足率、在籍数) 卒業者数、退学者数、休学者数、就職者数、進学者数</p> <p>専門学校の概要 教員組織の概要、職員の概要 校地等、校舎、教室等、研究室。図書設備</p> <p>情報公開について 教育情報について 財務状況について 学習成果について</p> <p>III-Cその他資源 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している</p> |

| | |
|---|--|
| (7) 学生の受入れ募集 | (自己点検・評価報告) 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している |
| (8) 財務 | (自己点検・評価報告) III-D 財的資源 財的資源を適切に管理している 量的な経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している 浦山学園 事業報告書・財務情報 http://www.urayama.ac.jp/report/ |
| (9) 法令等の遵守 | (自己点検・評価報告) 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (自己点検・評価報告) 選択的評価基準 2 職業教育、選択的評価基準 3 地域貢献 B 地域貢献の取り組みについて |
| (11) 国際交流 | |
| ※(10) 及び (11) については任意記載。 | |
| (3) 情報提供方法 URL: http://www.bit.urayama.ac.jp/disclosure/pdf/evaluation_report.pdf | |

授業科目等の概要

| (商業実務専門課程デジタルメディア学科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|--------------|--|---------|-------------------|--------|--------|----------|----|----|----|----|---|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 単 位 数 | 講 義 | 演 習 | 授業方法 | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | |
| ○ | | | マルチメディア概論ⅠA | 多くの情報やメディアと共存する現代社会において、それらの特徴や意義、利点を正しく理解し、合理的にそれらを利用する能力とそれらを発展させる技術者になるための基礎知識を身に付ける。 | 1・前 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| ○ | | | マルチメディア概論ⅠB | 前期に学んだテーマや基礎知識をもとに、今後自分たちのまわりに展開する社会について考察し、自らの情報発信に有効な手段や環境を作り出す観点を身につける授業をおこなう。 | 1・後 | 30 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | | ○ | カラーコーディネートⅠA | 色彩理論の理解。基本を徹底的に理解する。実習によって色彩を楽しむ。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | カラーコーディネートⅡA | 色彩理論の理解。基本を徹底的に理解する。検定に向けての学習。 | 2・前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | カラーコーディネートⅡB | 色彩理論の理解。基本を徹底的に理解する。検定に向けての学習。 | 2・後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | | ○ | デザイン基礎ⅠA | デザインに必要な基礎的造形力を身につける。デザインとは何か？創造するとはどういうことなのか？“頭”で考えること、“手”で表現することを経験する。 | 1・前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | | ○ | デザイン基礎ⅠB | デザインに必要な基礎的造形力を身につける。デザインとは何か？創造するとはどういうことなのか？“頭”で考えること、“手”で表現することを経験する。 | 1・後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | | ○ | グラフィック基礎ⅠA | 発想力・イメージ構成力など、デザインの基本要素を学び表現する力をつける。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | | ○ | グラフィック基礎ⅠB | 発想力・イメージ構成力など、デザインの基本要素を学び表現する力をつける。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | CG基礎ⅠA | マルチメディアコンテンツの作成にはコンピュータの知識及び各ツールの活用能力、作成者の感性やクライアントの要求事項に応えるための調査や研究も欠かせない。本授業ではそれらを課題作成を通し、実用面から学ぶ。 | 1・前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------|---|-----|----|---|--|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|
| ○ | | CG基礎 I B | 2年次のアニメーション授業のため、コンテンツ作成にも重点を置いた授業を実施する。進級課題は1年次の仕上げの課題とする。 | 1・後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | グラフィックデザイン II A | 自己表現と自己を確立する基礎的な考え方や姿勢の習得。リサーチ・企画・製作・プレゼンテーションテクニックの習得。 | 2・前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | グラフィックデザイン II B | ロゴタイプのデザインツリーの製作を通しベーシックデザインとアプリケーションデザインをシステムとして学ぶ。 | 2・後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | 3DCG基礎 I A | LightWave3Dを使って3DCG制作の方法を学ぶ。課題を作成しながら実際の操作方法を身につけ、静止画や動画を作成する。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | 3DCG基礎 I B | LightWave3Dを使って3DCG制作の方法を学ぶ。課題を作成しながら実際の操作方法を身につけ、静止画や動画を作成する。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| | ○ | 3DCG演習 II A | LightWave3Dを使って3DCG制作の方法を学ぶ。小課題をクリアしながら実際の操作方法を身につける。特に、LightWave 3Dの特徴である特殊効果をマスターする。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| | ○ | 3DCG演習 II B | LightWave3Dを使って3DCG制作の方法を学ぶ。小課題をクリアしながら実際の操作方法を身につける。特に、LightWave 3Dの特徴である特殊効果をマスターする。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | Webデザイン I A | HTML、CSSに関する基本的な知識を学び、Webページのソースを見て、内容を理解し、適切な追記、修正を行うことができること。Dreamweaverを使用し、CSSによるレイアウトを用い、WEBページを作成できること。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | Webデザイン I B | HTML、CSSに関する基本的な知識を学び、Webページのソースを見て、内容を理解し、適切な追記、修正を行うことができること。Dreamweaverを使用し、CSSによるレイアウトを用い、WEBページを作成できること。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | Webデザイン II A | Adobe Web Standard CS5でWebデザインのラフからフィニッシュまでJavascriptを加えて作成する。 | 2・前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | Webデザイン II B | Adobe Web Standard CS5でWebデザインのラフからフィニッシュまでJavascriptを加えて作成する。 | 2・後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | Webコンテンツ基礎 II A | インターネットやマルチメディア制作の中心的ソフトであるFlashについて、演習形式を中心に学習を進め、CGデザイン、Web（ホームページ）の基礎などの実習も並行して行い、基礎を身につける。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| ○ | | Webコンテンツ演習 II A | スマートフォンサイト構築ツールとして評価の高い、jQueryMobileをテーマとし、すばやく見た目にも美しいサイトを構築する。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------|--|-----|----|---|--|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ○ | | デジタルムービー I A | 映像作品を作成する際に必要な工程の理解と実践を行う。また機器の使用法及び編集方法を習得する。 | 1・前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | デジタルムービー I B | 実際に映像作品の作成を繰り返し、スキルアップを行う。 | 1・後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | 総合演習 II A | CG、3DCG、映像の技術を活用して、作品作成を行う。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | 総合演習 II B | CG、3DCG、映像の技術を活用して、作品作成を行う。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス知識論 I A | 社会人に必要な顧客意識や職業人としての基本的考え方、そしてビジネス文書作成などの基本スキルを習得する。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス知識論 I B | 前期に引き続き、仕事に対する姿勢・常識・文書作成能力など、社会人として必要な一般的基本スキルを習得する。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス行動論 II A | 職業人基礎力を踏まえ、一般的なビジネスマナーなどのコミュニケーションの基礎・顧客意識を実践し、演習を通して仕事に対する姿勢・ビジネス常識・文書作成などの基本スキルを実践できる力を身に付ける。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス行動論 II B | 職業人基礎力を踏まえ、一般的なビジネスマナーなどのコミュニケーションの基礎・顧客意識を実践する。演習を通して仕事に対する姿勢・ビジネス常識・文書作成などの基本スキルを実践できる力を身に付ける。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス IT 技術 I A | 各職種において文書を作成するスキルは、必須である。本科目では、一般的ワープロソフトである「WORD」を使用し、様々な文書を速く正確に作成するスキルを学ぶ。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス IT 技術 I B | 各職種において文書を作成するスキルは、必須である。本科目では、一般的ワープロソフトである「WORD」を使用し、様々な文書を速く正確に作成するスキルを学ぶ。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス IT 技術 II A | 企業において必須技能であるエクセル技術の演習を行う。日常業務に必要な表計算・グラフ作成・データベースの技術を身につける。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | ビジネス IT 技術 II B | 企業において必須技能であるエクセル技術の演習を行う。日常業務に必要な表計算・グラフ作成・データベースの技術を身につける。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | グループワーク論 I A | 社会人基礎力の3大要素は『前に踏み出す力（アクション）』『考え抜く力（シンキング）』『チームで働く力（チームワーク）』である。グループワークの考え方、ツールを紹介しながら演習に取り組む。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|------------|---|-----|----|---|--|---|---|---|--|--|--|--|--|--|
| | | ○ | グループワーク論ⅠB | 『前に踏み出す力（アクション）』『考え抜く力（シンキング）』『チームで働く力（チームワーク）』を意識し、グループワークで実践しながら、リーダーシップとは何か、何が必要な要素なのか体験的に学習する。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | ボランティア論ⅡA | ボランティアの知識と体験を通して、地域、年代を越えた社会との関わり方を学ぶ。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | ボランティア論ⅡB | ボランティアの知識と体験を通して、地域、年代を越えた社会との関わり方を学ぶ。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 文書・計算能力ⅠA | 社会人として基本的な知識・技能を「読み・書き・そろばん」の観点で学ぶ。電卓技能や漢字、時事問題などを具体的に演習する。また各種検定も受験する。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 文書・計算能力ⅠB | 社会人として基本的な知識・技能を「読み・書き・そろばん」の観点で学ぶ。電卓技能や漢字、時事問題などを具体的に演習する。また各種検定も受験する。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 文書・計算能力ⅡA | 1年次で習得した電卓技能や漢字、時事問題などを更に深める。更に高度な資格取得を目指す。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 文書・計算能力ⅡB | 1年次で習得した電卓技能や漢字、時事問題などを更に深める。更に高度な資格取得を目指す。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 集団ゲームⅠA | 集団ゲームを通して、チームワークの大切さを学ぶ。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 集団ゲームⅠB | 集団ゲームを通して、チームワークにおけるリーダーシップの大切さを学ぶ。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 音楽ⅡA | 社会人としてコミュニケーション能力を身につけることはとても大切である。音楽を学ぶことで自己表現力を豊かし、連帯感、協調性を養い円滑な人間関係を築けるようにするための授業である。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | 音楽ⅡB | 社会人としてコミュニケーション能力を身につけることはとても大切である。音楽を学ぶことで自己表現力を豊かし、連帯感、協調性を養い円滑な人間関係を築けるようにするための授業である。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | ビジネスマナーⅠA | 社会人として身につけておくべき常識＝ビジネスマナーを習得する。職場環境では、お客様や先輩、上司など、様々な人と関わりあいながら仕事を進めることとなり、互いを思いやる気持ちが重要である。前期では、思いやる気持ちの基本的ルールを学び取る。 | 1・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | ○ | ビジネスマナーⅠB | 社会人として身につけておくべき常識＝ビジネスマナーを習得する。職場環境では様々な社会的ルールを知っておく必要がある。後期では応対・慶弔マナー等、身につけておくべき常識知識を習得し、実践躬行できるようにする。 | 1・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|----|---|------|--------------------------------------|-----|----|----|------------------|---|---|---|--|--|
| | ○ | 親学ⅡA | 人として心の成長や脳の発達を親と子どもの心の観点から学習する。 | 2・前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | |
| | ○ | 親学ⅡB | 子どもを通じて親も親として成長することを理解し自分の将来への希望をもつ。 | 2・後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | ○ | | |
| 合計 | | | | | 51 | 科目 | 1890単位時間(65 単位) | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|----------|--|-----|--|
| 卒業要件及び履修方法 | | | | 授業期間等 | | | |
| 卒業要件： 60単位取得 GPA 2.0以上 必修科目を取得していること | | | | 1学年の学期区分 | | 2期 | |
| | | | | 1学期の授業期間 | | 15週 | |

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。